

第6章 「いじめ問題」に関する意識調査集計・分析結果

1 調査の趣旨

本調査は、「東京都いじめ問題緊急対策本部」の取組みの一環として、東京都の公立小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校における児童、生徒、教職員、保護者の「いじめ」に関する意識の状況を把握するために実施したものである。

2 調査時期

平成7年6月中旬～平成7年7月中旬

3 調査方法

都内公立小学校5校、中学校5校、高等学校5校、盲・ろう・養護学校5校の児童・生徒・教職員及び保護者に対し、質問紙法によるアンケート調査を実施した。なお、保護者に対しては、各学校の担任から児童・生徒を通して調査用紙を配布し、無記名・封筒入りで回収した。アンケートの集計・分析については、主として東京都立教育研究所「いじめ問題」特別研究委員会事務局が当たった。

4 調査対象と回収数

(1) 小学校及び盲・ろう・養護学校小学部5, 6年生	:	4 3 6人
(2) 中学校及び盲・ろう・養護学校中学部1, 2, 3年生	:	7 1 5人
(3) 高等学校及び盲・ろう・養護学校高等部1, 2, 3年生	:	6 3 0人
(4) 教職員	:	4 6 1人
(5) 保護者(上記(1), (2), (3)の保護者)	:	1, 5 3 4人

5 調査項目の設定と集計

- (1) (設問1) いじめの背景や原因を対象別にまとめ、比較する。
- (2) (設問2) いじめの解消への方法を対象別にまとめ、比較する。
- (3) (設問3) いじめる子供について、いじめる理由を対象別にまとめ、比較する。
いじめる子供について、いじめた経験といじめられた経験別にまとめ、比較する。
- (4) (設問4) いじめられる子供について、いじめられる理由を対象別にまとめ、比較する。
いじめられる子供について、いじめた経験といじめられた経験別にまとめ、比較する。
- (5) (設問5) いじめを見ている子供について、いじめを見ている理由を対象別にまとめ、比較する。
- (6) 結果数値(%)は、四捨五入して整数で示す。

6 本調査の特性

- (1) 他の機関の調査は、いじめの体験の有無やいじめへの対応等の実態を中心とする場合が多いが、本調査では、いじめに関する考え方や見方等の意識を探ろうとした。
- (2) 調査対象を小学校及び小学部の5, 6年生、中学校及び中学部生徒、高等学校及び高等部生徒、教職員、保護者とし、また、同一の内容の調査項目とすることで、発達段階や立場による意識の比較・検討ができるようにした。
- (3) 児童・生徒においては、「いじめ」「いじめられ」の経験別に意識を比較することにより意識の内面を探ろうとした。

7 調査結果

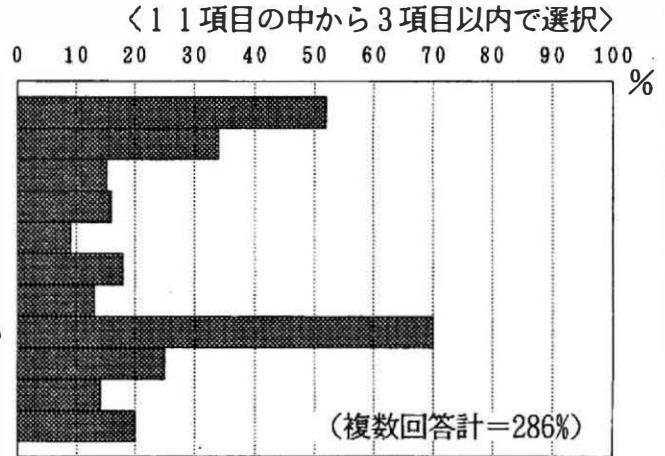
(1) いじめはなぜ起きるのか

設問

「いじめ」の背景や原因についてどのように考えていますか。

(小学校児童 436人)

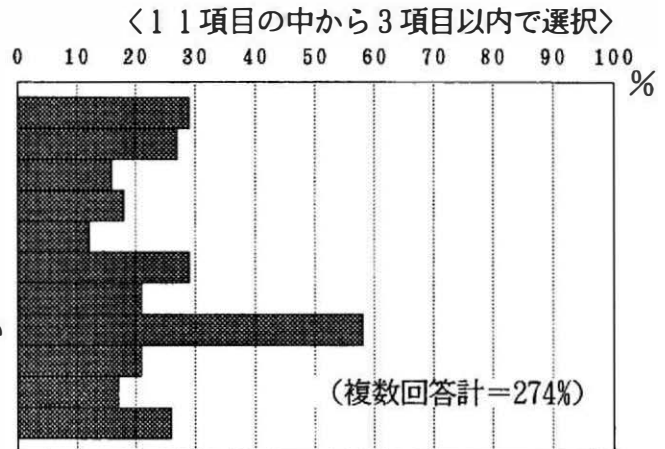
- 1 ストレスがたまっている
- 2 マスコミの影響を受けている
- 3 学校・家庭・地域の連携が不十分
- 4 授業が面白くなく、理解できない
- 5 教師が一人一人を尊重しない
- 6 学校のいじめをなくす努力が不足
- 7 教師との人間関係が不十分
- 8 子供同士の人間関係が築かれていない
- 9 家庭が子供を尊重していない
- 10 家庭でいじめを悪いと教えていない
- 11 望ましい親子関係が築かれていない



※項目8は「子供同士がお互いを大切にしていない」と質問した。

(中学校生徒 715人)

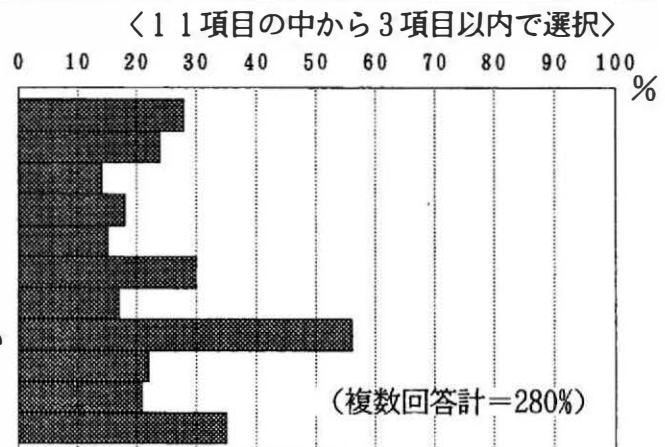
- 1 ストレスがたまっている
- 2 マスコミの影響を受けている
- 3 学校・家庭・地域の連携が不十分
- 4 授業が面白くなく、理解できない
- 5 教師が一人一人を尊重しない
- 6 学校のいじめをなくす努力が不足
- 7 教師との人間関係が不十分
- 8 子供同士の人間関係が築かれていない
- 9 家庭が子供を尊重していない
- 10 家庭でいじめを悪いと教えていない
- 11 望ましい親子関係が築かれていない



※項目8は「子供同士がお互いを大切にしていない」と質問した。

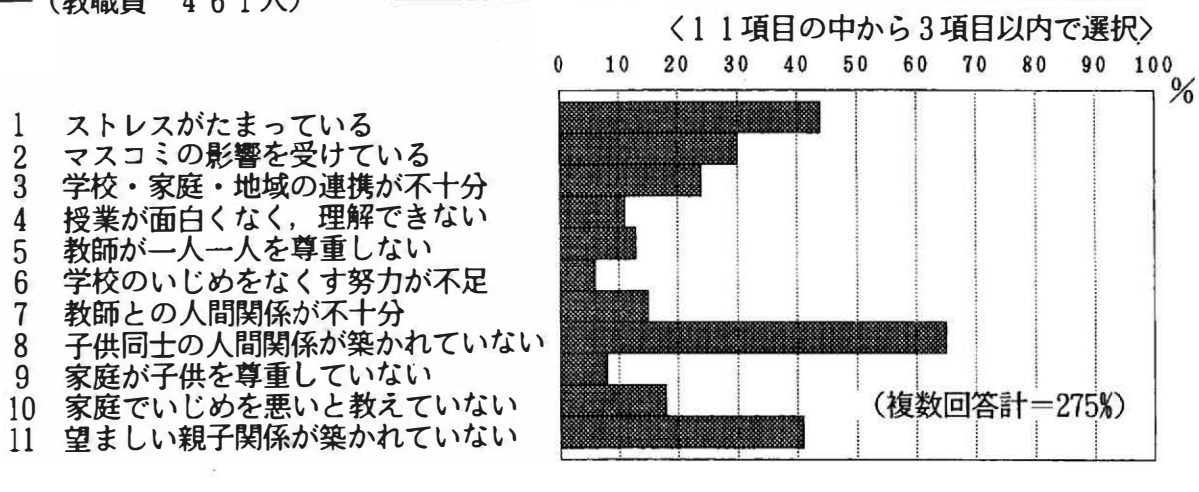
(高等学校生徒 630人)

- 1 ストレスがたまっている
- 2 マスコミの影響を受けている
- 3 学校・家庭・地域の連携が不十分
- 4 授業が面白くなく、理解できない
- 5 教師が一人一人を尊重しない
- 6 学校のいじめをなくす努力が不足
- 7 教師との人間関係が不十分
- 8 子供同士の人間関係が築かれていない
- 9 家庭が子供を尊重していない
- 10 家庭でいじめを悪いと教えていない
- 11 望ましい親子関係が築かれていない

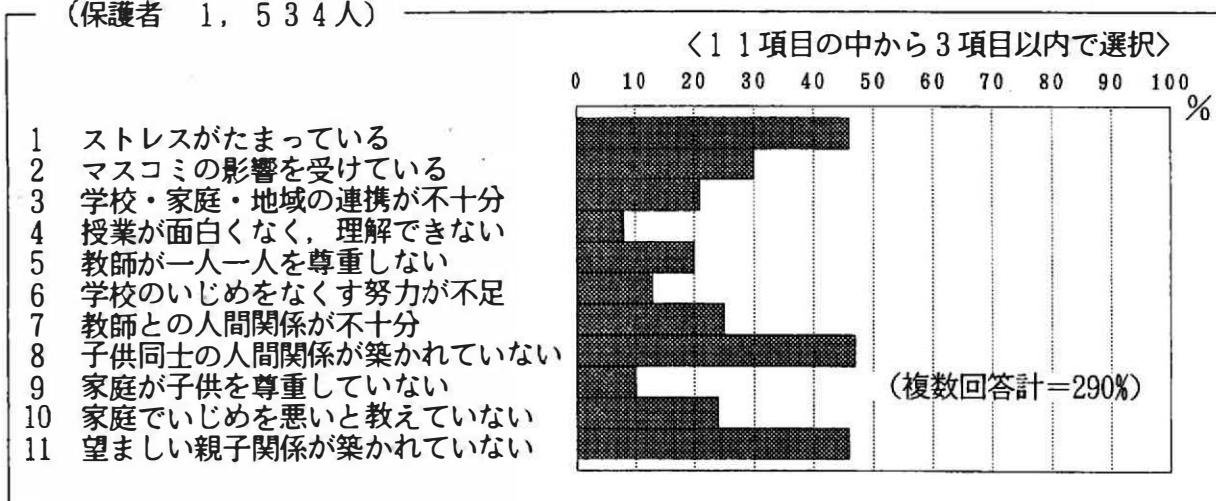


※項目8は「子供同士がお互いを大切にしていない」と質問した。

(教職員 461人)



(保護者 1,534人)



—自由記述より—

◎小学校児童

- ・遊びというふざけ感覚である。 ・ふざけている。 ・おもしろい。 ・不満の解消である。
- ・八つ当たりでしている。 ・イライラするから。 ・気晴らしである。

◎中学校生徒

- ・テレビなどで人の失敗などを笑う番組が多く、いじめという感覚がまひしている。
- ・おもしろがっている。 ・わがままになりたい。 ・ふざけと遊びの区別が付かない。
- ・優越感に浸りたい。

◎高等学校生徒

- ・どういう行為がいじめなのか分かっていない。 ・いじめの本当の怖さを知らない。
- ・気に入らない人だから。 ・優位に立っていることを認識し、自己満足する。
- ・相手へのしつから。

◎教職員

- ・個人主義、自分さえよければという社会風潮から。 ・現在の競争社会、大人社会の反映である。
- ・実質的に管理社会となっている。 ・子供の成長の過程で仲間と遊ぶ体験が不足している。
- ・遊びの中で子供社会のルールが確立されていない。

◎保護者

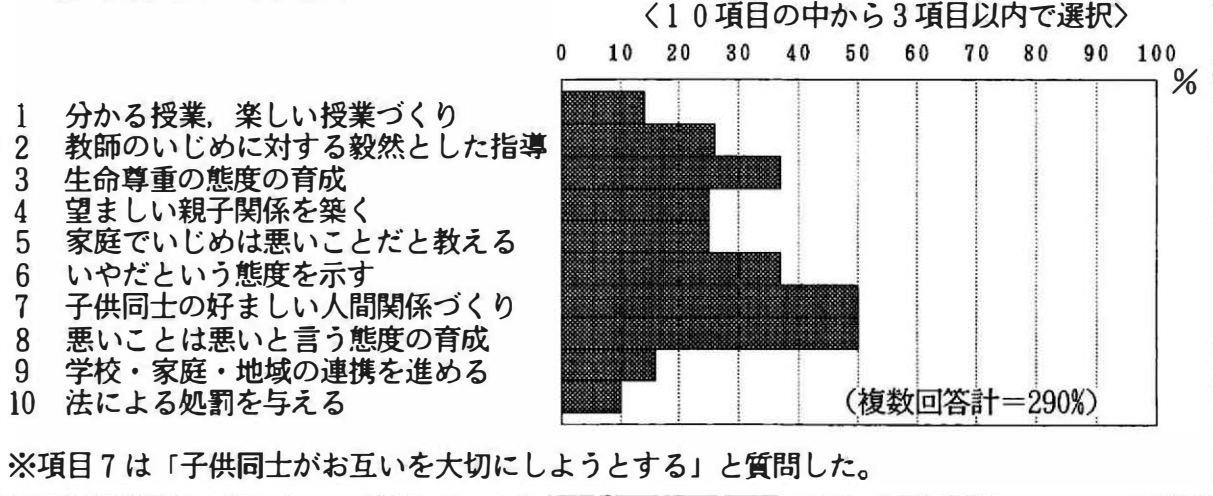
- ・大人社会にある『差別』や『区別』という意識の反映である。 ・遊びの変化のため。
- ・幼児期に遊びの体験が少ない。 ・親の世代の変化のため。 ・少子化による過保護のため。
- ・過干渉の影響のため。 ・教師が忙し過ぎる。

(2) いじめの解消について

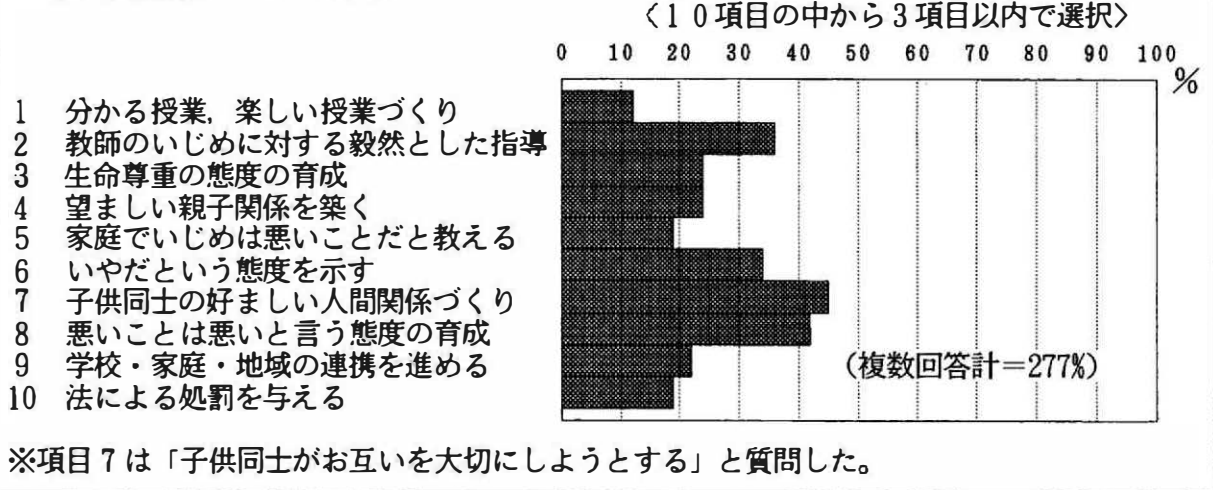
設問

「いじめ」の解消についてどのように考えますか。

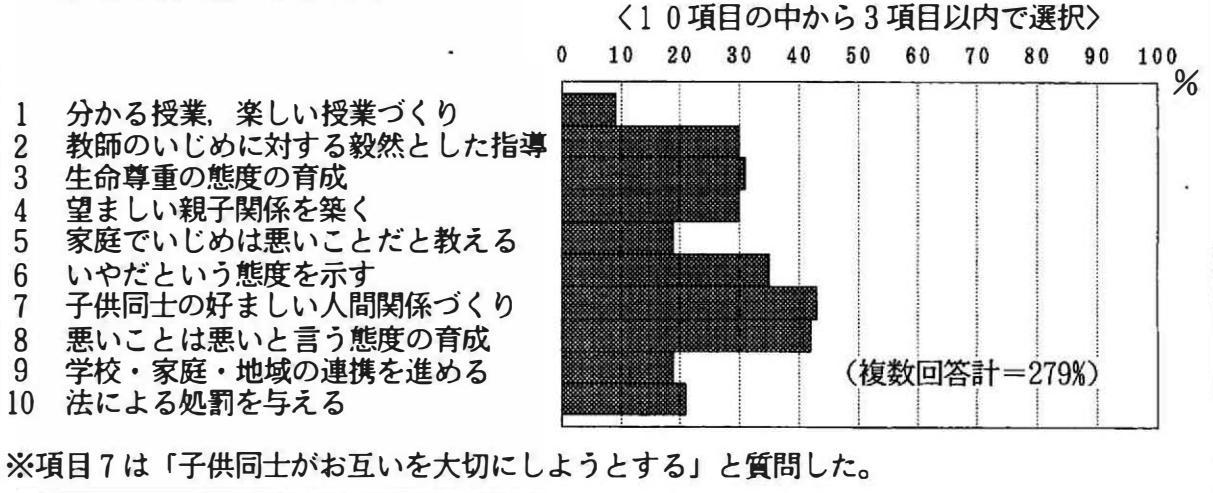
(小学校児童 436人)



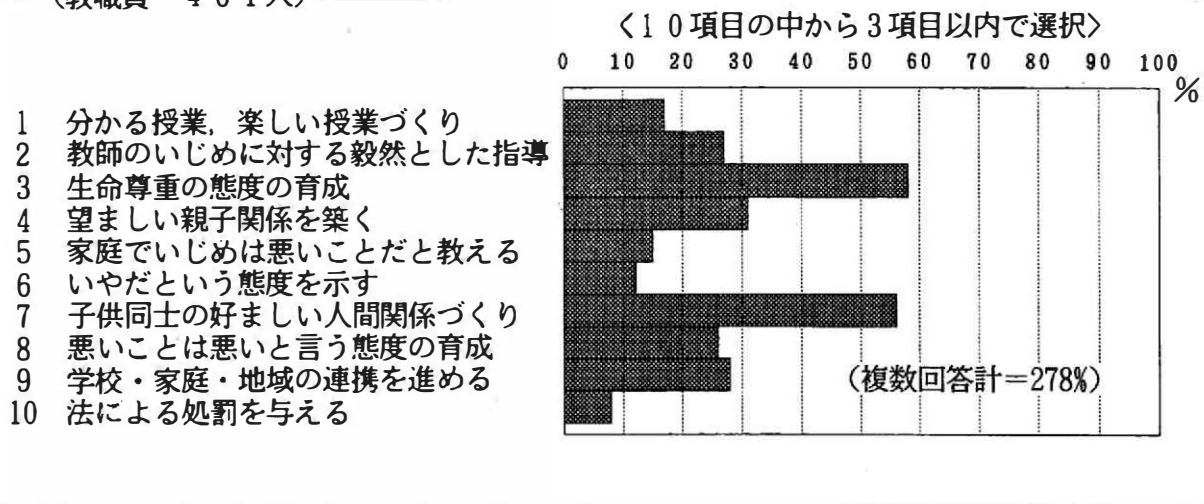
(中学校生徒 715人)



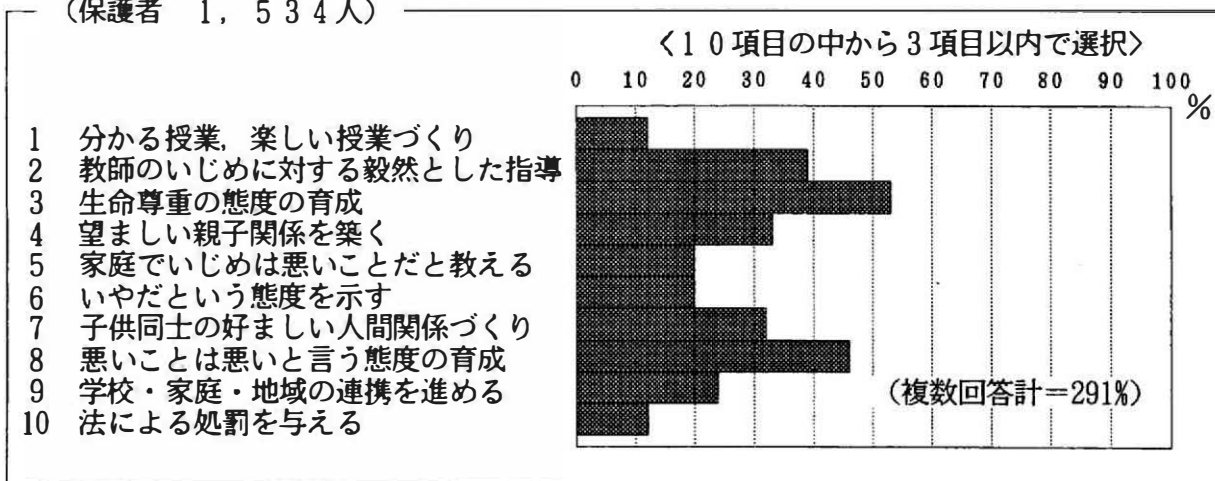
(高等学校生徒 630人)



(教職員 461人)



(保護者 1,534人)



—自由記述より—

◎小学校児童

- ・大切なことは親が教え、子供もそれをよく聞く。
- ・いじめている子を親がきちんとしかる。

◎中学校生徒

- ・世の中には自分と違う考えの人もいるということが受け入れられないのが問題である。
- ・先生との信頼関係を強くする。
- ・生徒同士がみんな平等であることを考える。

◎高等学校生徒

- ・いじめられている子供が、『いやなものはいや』と勇気を出して言う。

◎教職員

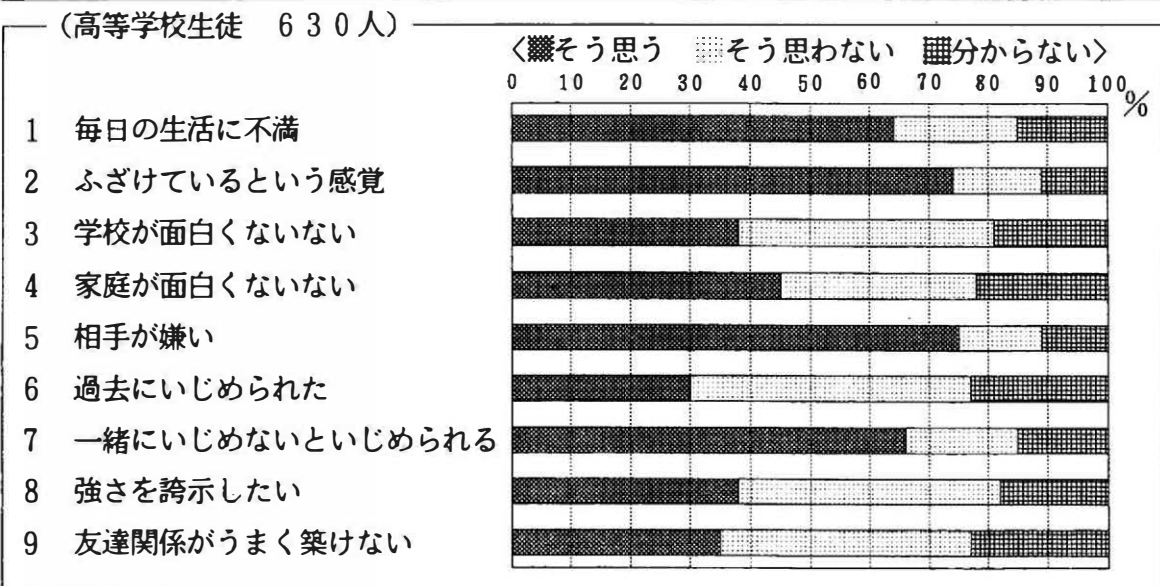
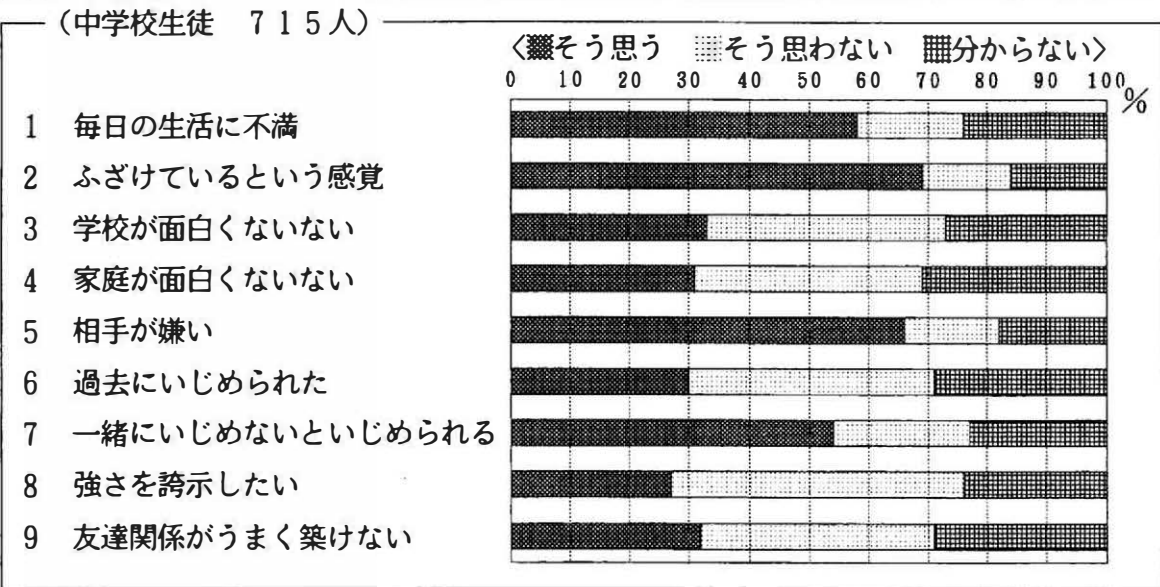
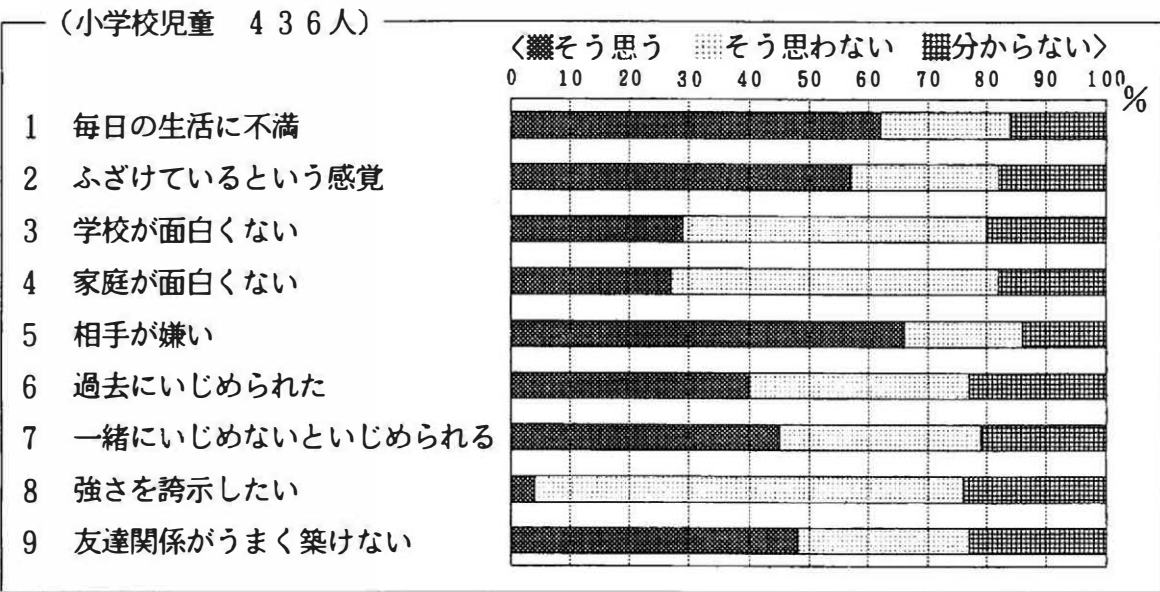
- ・心を育てることの重要性を知る。
- ・マスコミなどのメディアから入る情報を好ましいものにする。

◎保護者

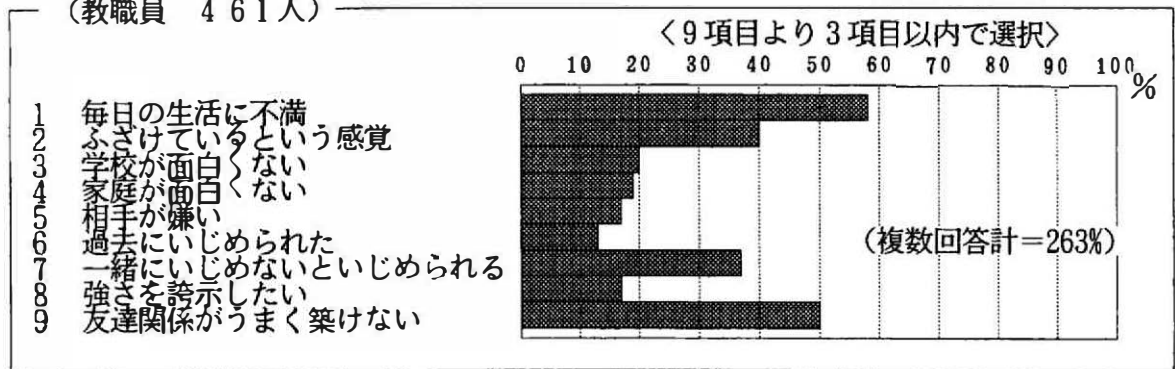
- ・他人を尊重する態度を教える場は幼いころの家庭教育である。
- ・低学年の時に、しっかりと指導すべきである。
- ・学校に相談室を設置する。
- ・専門のカウンセラーを配置する。

(3) いじめる子供について

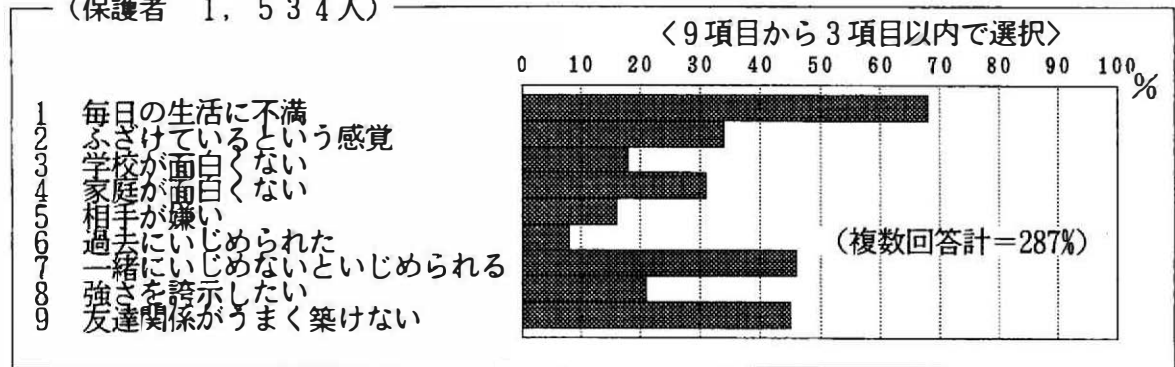
設問 「いじめる子供」は、なぜいじめるのだと思いますか。



(教職員 461人)



(保護者 1,534人)



— 自由記述より —

◎小学校児童

- ・親が悪い。 ・相手が弱いから。 ・ものを考えられないから。
- ・心のやさしさが身に付いていない。

◎中学校生徒

- ・面白がっている。 ・いじめる人はかわいそうな人。 ・理由なんてたいしてない。
- ・いじめをいじめと分かっていない。 ・自分のことしか考えていない。
- ・自分と違う人がいると不安を覚える。

◎高等学校生徒

- ・特に理由もなくいじめる。 ・真剣に物事に取り組むことが少ないから。
- ・親の教育が悪いから。 ・精神的に弱い。

◎教職員

- ・教師の学級経営が悪い。 ・集団の力がはたらく。 ・子供の心が育っていない。
- ・自分に自信がない。 ・社会の中で自分が生きるというすべをなくしている。
- ・善悪の判断を教えられなかった。

◎保護者

- ・自分の精神的安定をはかろうとしている。 ・自分の打ち込めるものが見つからないから。
- ・特に理由はない。 ・熱中できるものが見いだせない。 ・愛情を受けなかったから。
- ・善悪の判断ができない。 ・個人的に意地が悪い。 ・正しい成長をしていない。

同じ設問について、いじめた経験だけある児童・生徒といじめられた経験だけある児童・生徒との意識の比較を行うと、次のようになる。

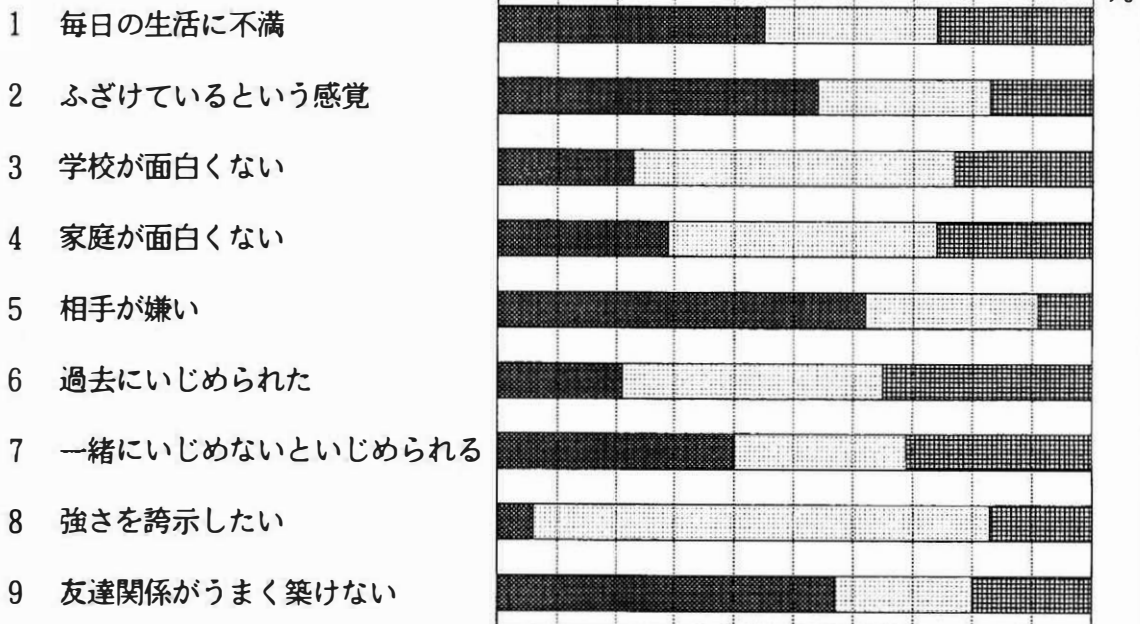
設問

「いじめる子供」は、なぜいじめめるのだと思いますか。

いじめた経験だけあり（小学校児童 35人／436人中）

◼◼◼ 思う ◼◼◼ 思う ◼◼◼ 分からない

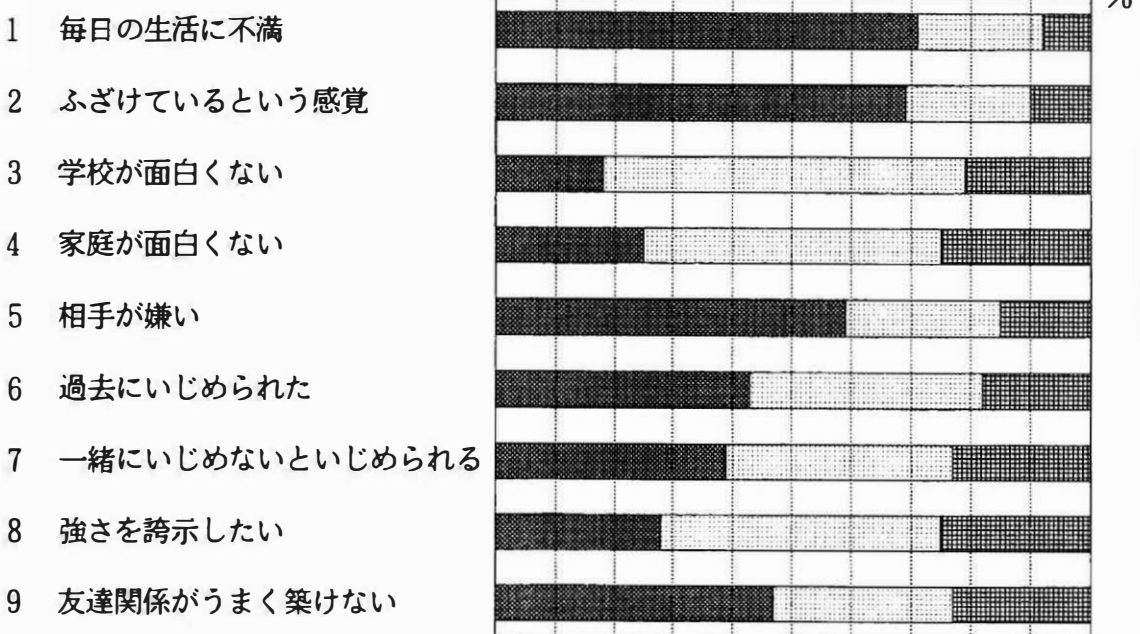
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



いじめられた経験だけあり（小学校児童 62人／436人中）

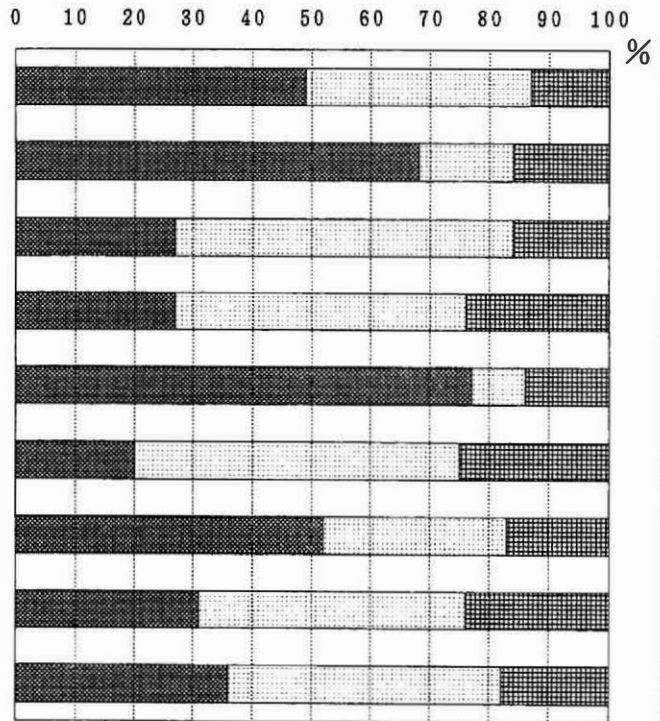
◼◼◼ 思う ◼◼◼ 思う ◼◼◼ 分からない

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



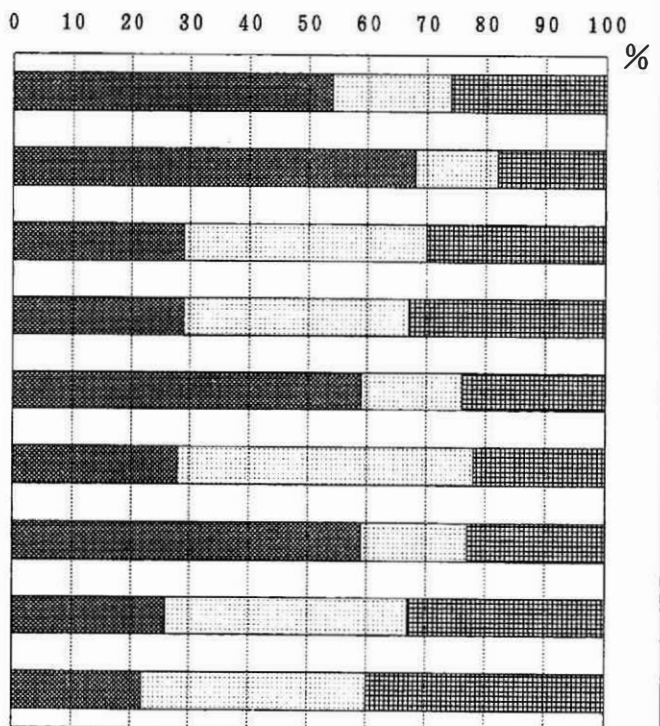
いじめた経験だけあり（中学校生徒 57人/715人中）

〈■ と思う ■■■ そう思わない ■■■■ 分からない〉



いじめられた経験だけあり（中学校生徒 96人/715人中）

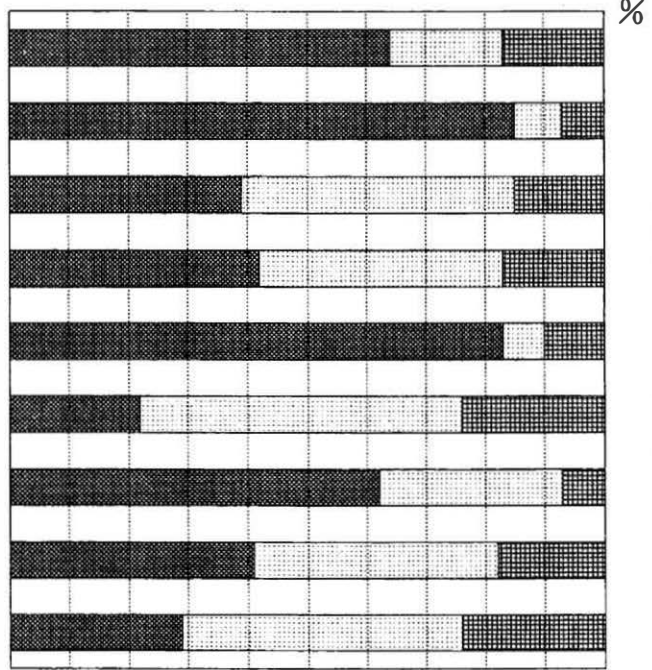
〈■ と思う ■■■ そう思わない ■■■■ 分からない〉



いじめた経験だけあり（高等学校生徒 59人／630人中）

＜■思う ■思う ■分らない＞
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 %

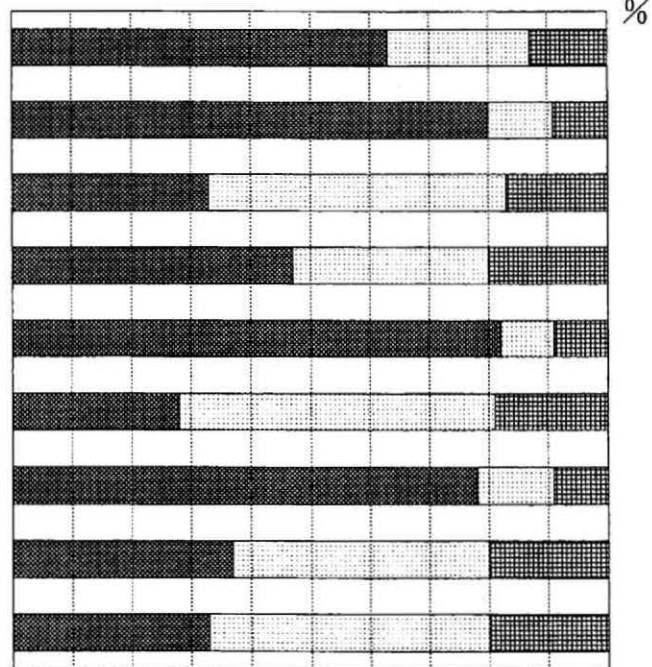
- 1 毎日の生活に不満
- 2 ふざけているという感覚
- 3 学校が面白くない
- 4 家庭が面白くない
- 5 相手が嫌い
- 6 過去にいじめられた
- 7 一緒にいじめないといじめられる
- 8 強さを誇示したい
- 9 友達関係がうまく築けない



いじめられた経験だけあり（高等学校生徒 54人／630人中）

＜■思う ■思う ■分らない＞
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 %

- 1 毎日の生活に不満
- 2 ふざけているという感覚
- 3 学校が面白くない
- 4 家庭が面白くない
- 5 相手が嫌い
- 6 過去にいじめられた
- 7 一緒にいじめないといじめられる
- 8 強さを誇示したい
- 9 友達関係がうまく築けない

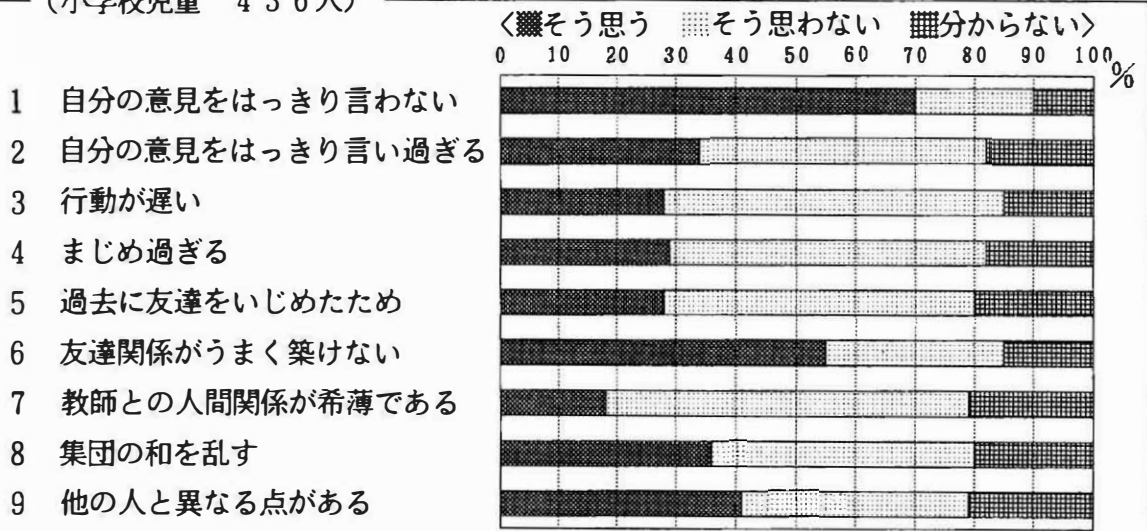


(4) いじめられる子供について

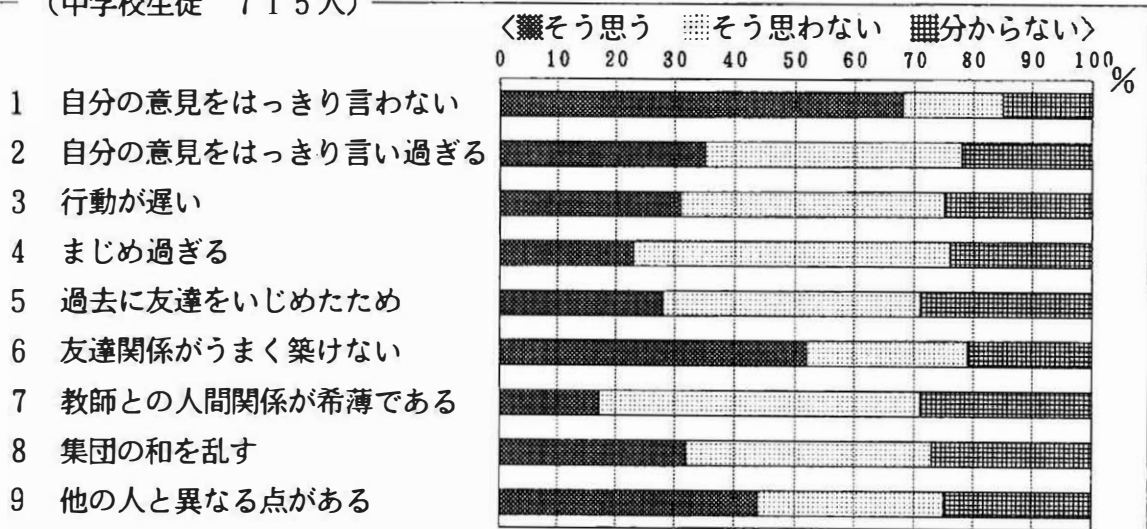
設問

「いじめられる子供」は、なぜいじめられるのだと思いますか。

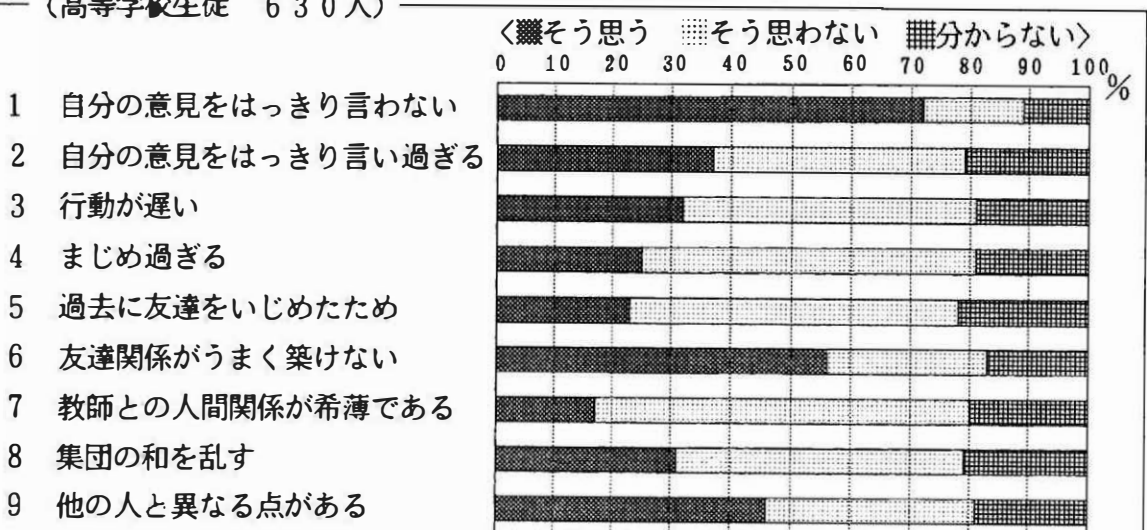
(小学校児童 436人)

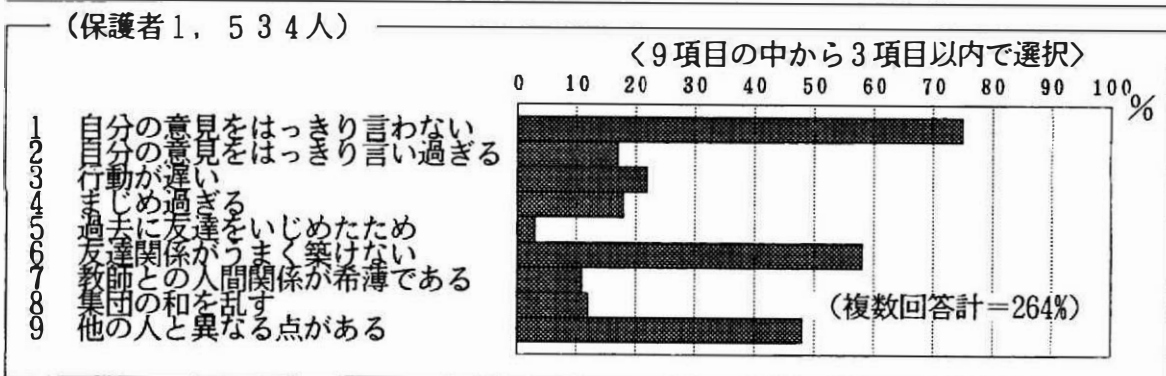
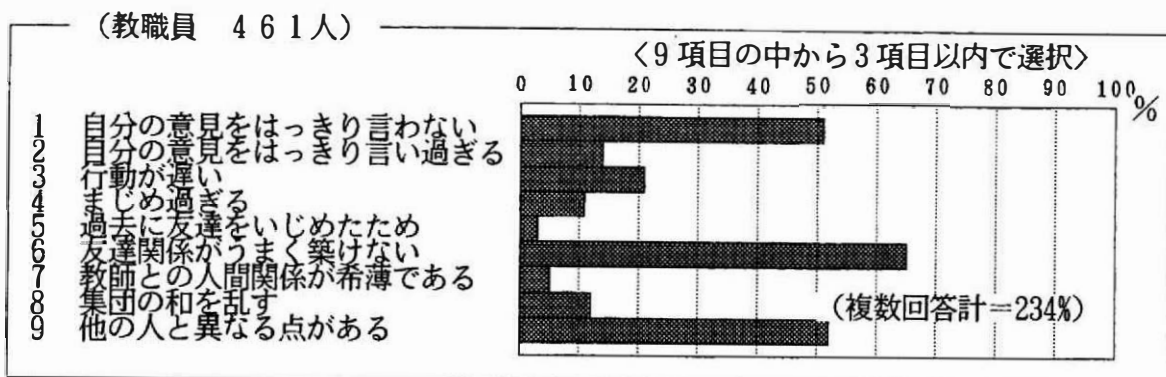


(中学校生徒 715人)



(高等学校生徒 630人)





—自由記述より—

◎小学校児童

- ・仲の良い友達がいない。 ・自分のことしか考えない。 ・すぐ親に頼る。
- ・先生にひいきされていると思われる。

◎中学校生徒

- ・陰で悪口を言ったり、ひきょうな手を使ったりする。
- ・自分が悪いと認めず、他の生徒を悪者にする。 ・やり返したり、親に言ったりしない。

◎高等学校生徒

- ・相談する相手がなく、自分の殻に閉じこもってしまう。 ・なんでも親が出てくる。

◎教職員

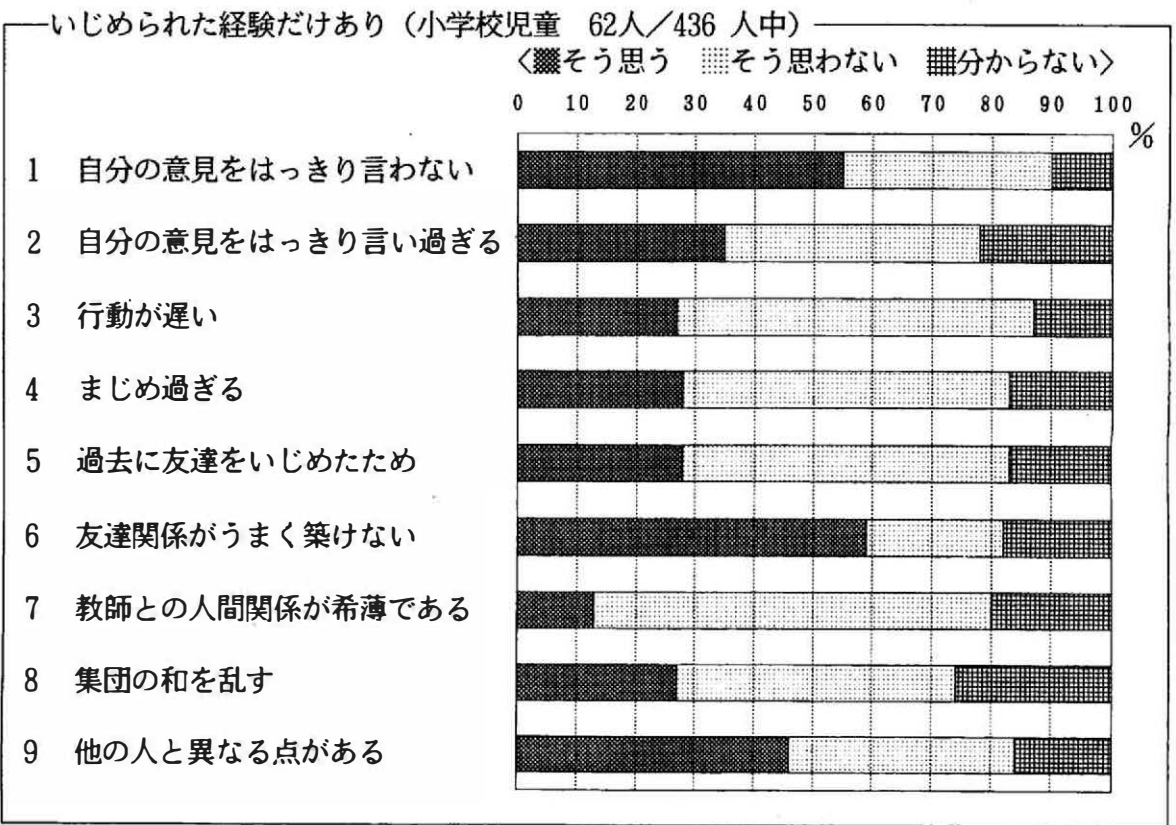
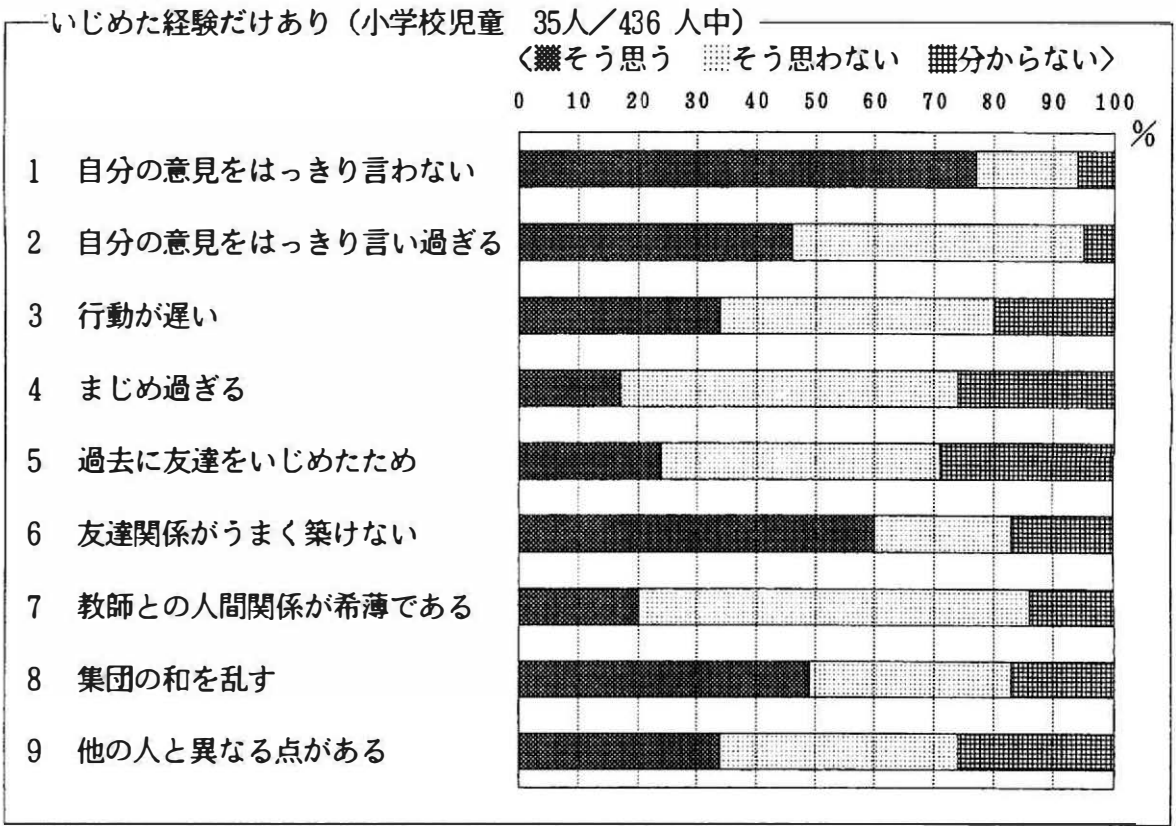
- ・いじめられる子供に原因はない。

◎保護者

- ・教師が一人一人の子供を自分の子供と思って育てていない。
- ・個性ある者を異端とし、横並びで安心する社会風潮がある。
- ・いじめられる子供に責任はない。

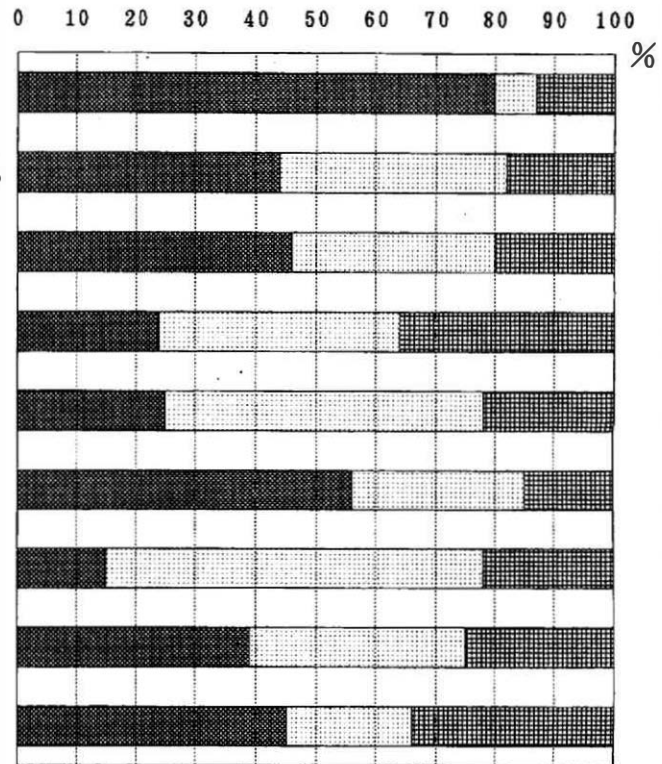
同じ設問について、いじめた経験だけある児童・生徒といじめられた経験だけある児童・生徒との意識の比較を行うと、次のようになる。

設問 「いじめられる子供」は、なぜいじめられるのだと思いますか。



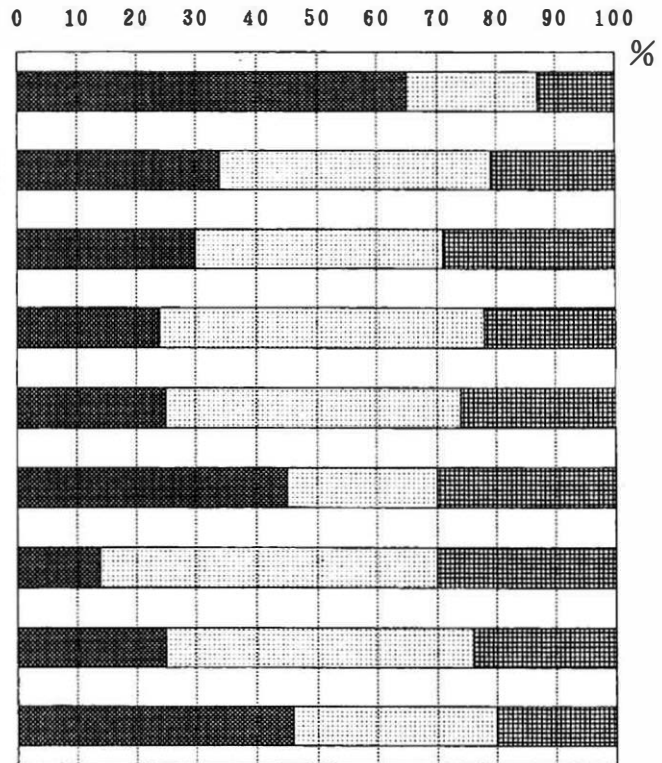
いじめた経験だけあり（中学校生徒 57人/715人中）

〈■ 嫌そう思う ■■■ そう思わない ■■■■ 分からない〉



いじめられた経験だけあり（中学校生徒 96人/715人中）

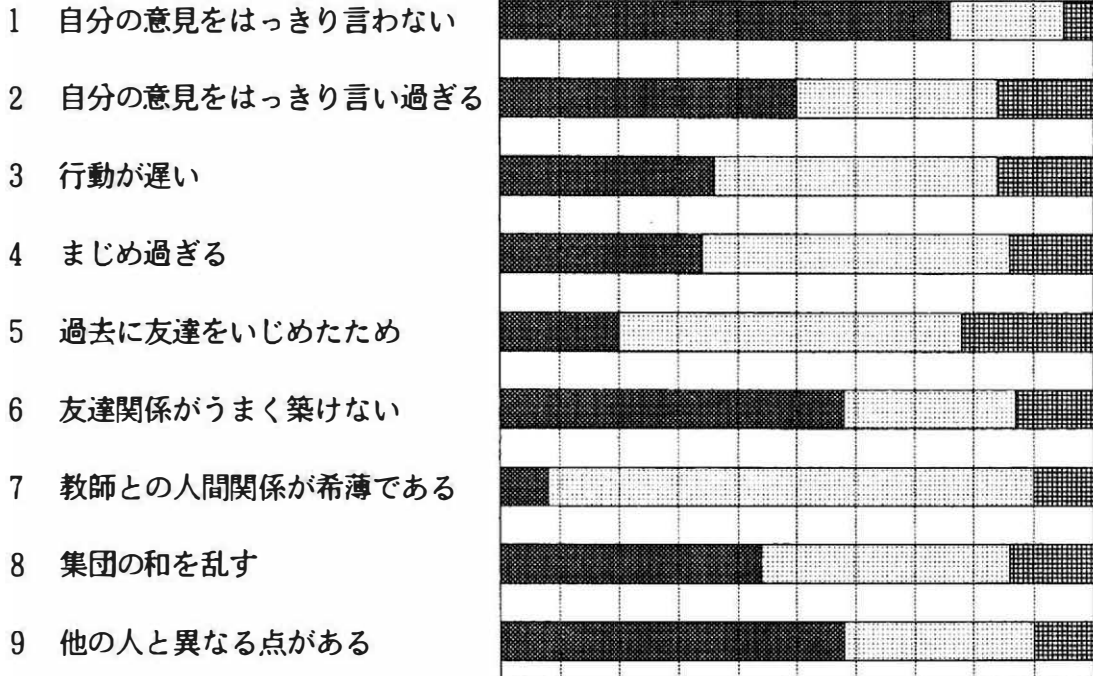
〈■ 嫌そう思う ■■■ そう思わない ■■■■ 分からない〉



いじめた経験だけあり（高等学校生徒 59人/630人中）

＜■思う 〰️そう思わない 〰️分らない＞

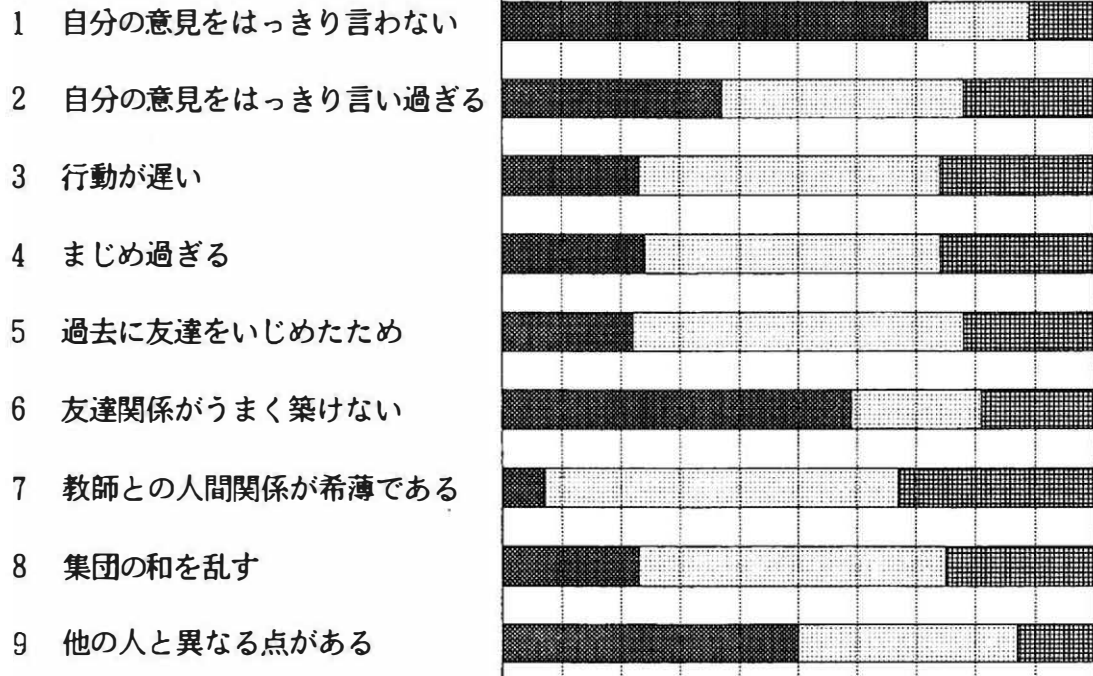
0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 %



いじめられた経験だけあり（高等学校生徒 54人/630人中）

＜■思う 〰️そう思わない 〰️分らない＞

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 %

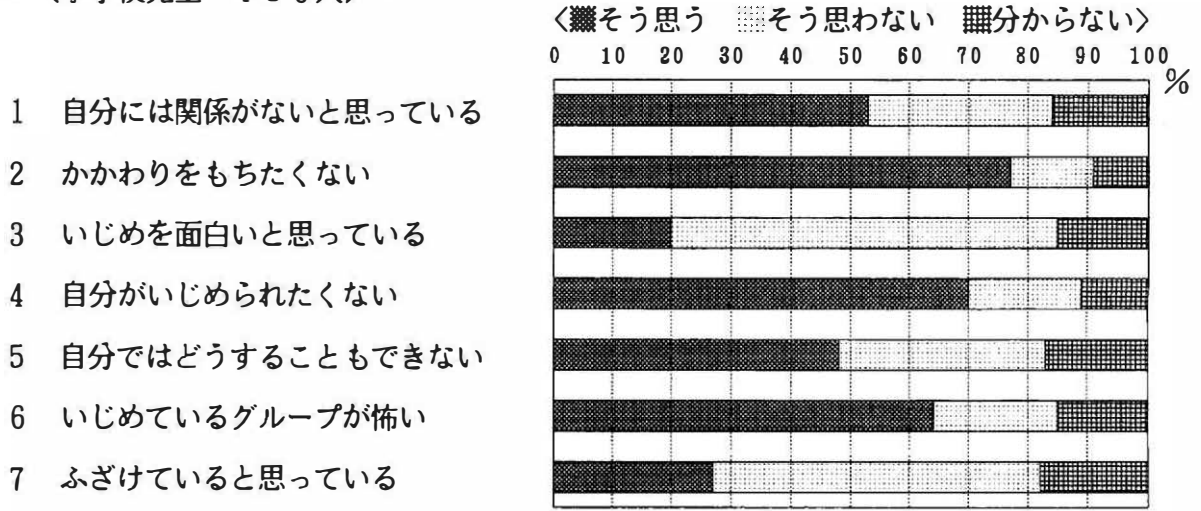


(5) いじめを見ている子供について

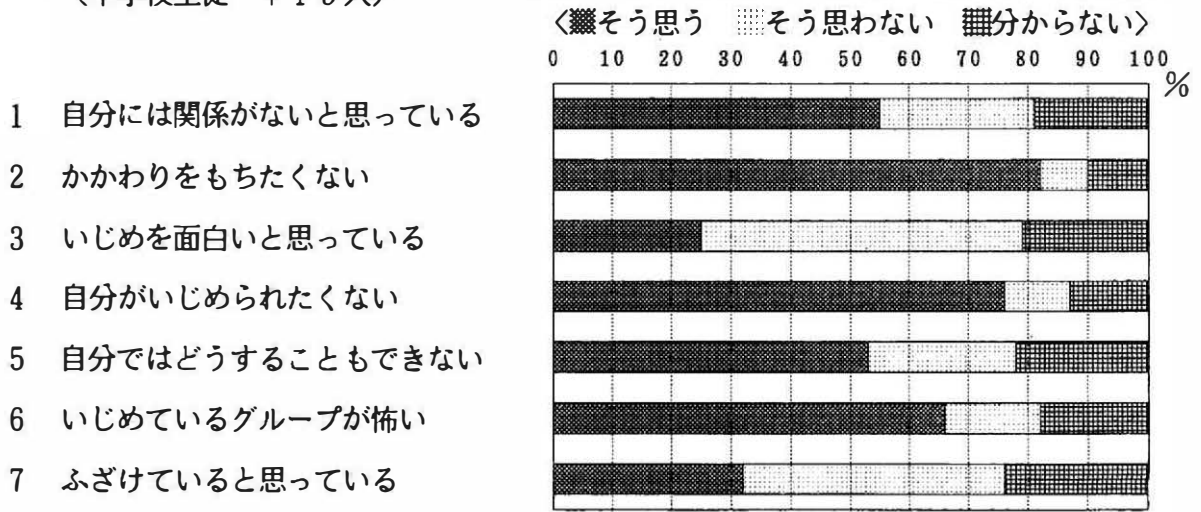
設問

「いじめを見ている子供」は、なぜいじめを見ているのだと思いますか。

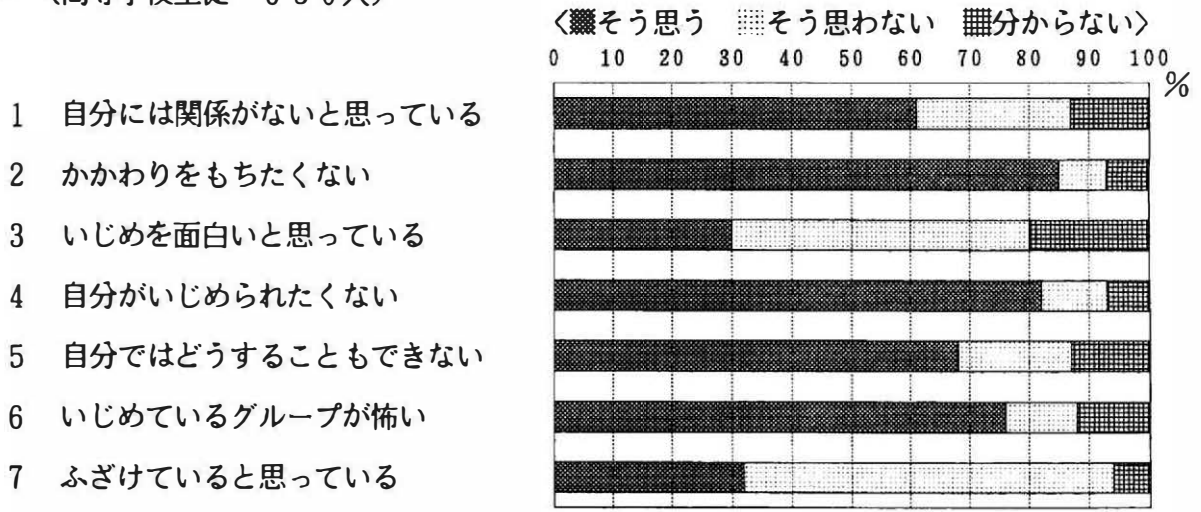
(小学校児童 436人)



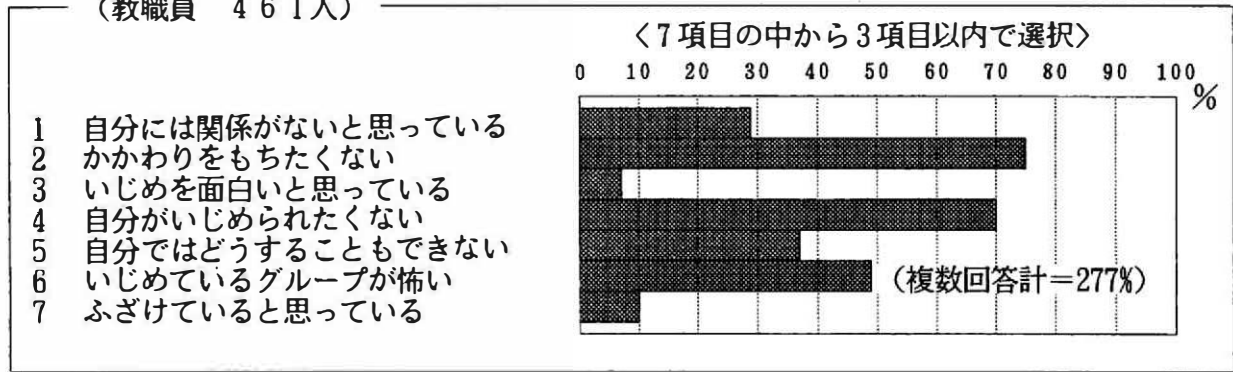
(中学校生徒 715人)



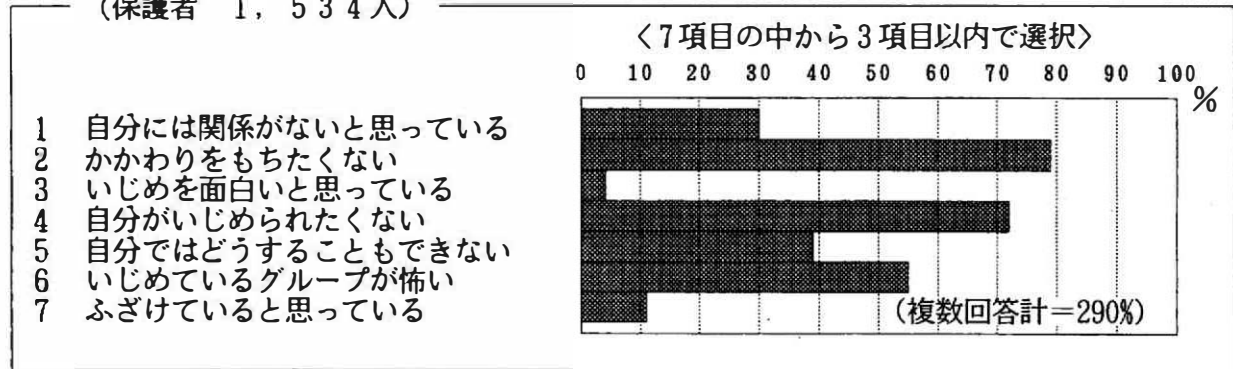
(高等学校生徒 630人)



(教職員 461人)



(保護者 1,534人)



—自由記述より—

◎小学校児童

- ・自分では もう止められなくなっている。
- ・いじめている人に何も言えない。 ・注意するといじめられる。
- ・自分がよければすべてよし、という考えをもっている。

◎中学校生徒

- ・その人が嫌だから。 ・ほうっておけばどうにかなると思っている。
- ・本当にかわいそうと思っていない。

◎高等学校生徒

- ・そのうちに終わると思っている。 ・いじめがあることに気が付かないことが多い。
- ・興味本位で見ている。

◎教職員

- ・大人社会の反映。 ・他に対するの無関心さは大人と同じ。 ・正義感の通らない現代そのもの。

◎保護者

- ・兄弟が少なく、親は口うるさい。そのため生活力がない子が多い。
- ・人の痛みを痛みとして受け止められない。 ・大人の社会の反映。

8 集計結果の概要 (結果数値(%)は四捨五入し、整数で示してある。複数回答のため、合計は100%とならない。)

設問1 「いじめ」の背景や原因についてどのように考えていますか。

	1位	2位	3位
小学校児童	子供同士の人間関係を築かれていない(70%)	ストレスがたまっている(52%)	マスコミの影響を受けている(34%)
中学校生徒	子供同士の人間関係を築かれていない(58%)	ストレスがたまっている(29%)	学校のいじめをなくす努力が不足(29%)
高等学校生徒	子供同士の人間関係を築かれていない(56%)	望ましい親子関係を築かれていない(35%)	学校のいじめをなくす努力が不足(30%)
教職員	子供同士の人間関係を築かれていない(65%)	ストレスがたまっている(44%)	望ましい親子関係を築かれていない(41%)
保護者	子供同士の人間関係を築かれていない(47%)	ストレスがたまっている(46%)	望ましい親子関係を築かれていない(46%)

設問2 「いじめ」の解消についてどのように考えますか。

	1位	2位	3位
小学校児童	子供同士の好ましい人間関係づくり(50%)	悪いことは悪いと言う態度の育成(50%)	生命尊重の態度の育成(37%)
中学校生徒	子供同士の好ましい人間関係づくり(45%)	悪いことは悪いと言う態度の育成(42%)	教師のいじめに対する毅然とした指導(36%)
高等学校生徒	子供同士の好ましい人間関係づくり(43%)	悪いことは悪いと言う態度の育成(42%)	いやだという態度を示す(35%)
教職員	生命尊重の態度の育成(58%)	子供同士の好ましい人間関係づくり(56%)	望ましい親子関係を築く(31%)
保護者	生命尊重の態度の育成(53%)	悪いことは悪いと言う態度の育成(46%)	教師のいじめに対する毅然とした指導(39%)

設問3 「いじめられる子供」は、なぜいじめられるのだと思いますか。

	1位	2位	3位
小学校児童	相手か嫌い(66%)	毎日の生活に不満(62%)	ふざけているという感覚(58%)
中学校生徒	ふざけているという感覚(66%)	相手か嫌い(66%)	毎日の生活に不満(58%)
高等学校生徒	相手か嫌い(75%)	ふざけているという感覚(73%)	一緒にいじめないといじめられる(66%)
教職員	毎日の生活に不満(58%)	友達関係をうまく築けない(50%)	ふざけているという感覚(40%)
保護者	毎日の生活に不満(68%)	一緒にいじめないといじめられる(46%)	友達関係をうまく築けない(45%)

設問4 「いじめられる子供」は、なぜいじめられるのだと思いますか。

	1位	2位	3位
小学校児童	自分の意見をはっきり言わない(70%)	友達関係をうまく築けない(55%)	他の人と異なる点がある(41%)
中学校生徒	自分の意見をはっきり言わない(68%)	友達関係をうまく築けない(52%)	他の人と異なる点がある(44%)
高等学校生徒	自分の意見をはっきり言わない(72%)	友達関係をうまく築けない(56%)	他の人と異なる点がある(46%)
教職員	友達関係をうまく築けない(65%)	他の人と異なる点がある(52%)	自分の意見をはっきり言わない(51%)
保護者	自分の意見をはっきり言わない(75%)	友達関係をうまく築けない(58%)	他の人と異なる点がある(48%)

経路別	設問	3「いじめられる子供」はなぜいじめられるのだと思いますか。	4「いじめられる子供」はなぜいじめられるのだと思いますか。
小学校児童 いじめた経験あり	①	相手か嫌い(62%)	① 自分の意見をはっきり言わない(77%)
	②	友達関係をうまく築けない(57%)	② 友達関係をうまく築けない(60%)
小学校児童 いじめられた経験あり	①	毎日の生活に不満(71%)	① 友達関係をうまく築けない(59%)
	②	ふざけているという感覚(69%)	② 自分の意見をはっきり言わない(55%)
中学校生徒 いじめた経験あり	①	相手か嫌い(76%)	① 自分の意見をはっきり言わない(80%)
	②	ふざけているという感覚(68%)	② 友達関係をうまく築けない(56%)
中学校生徒 いじめられた経験あり	①	ふざけているという感覚(68%)	① 自分の意見をはっきり言わない(65%)
	②	相手か嫌い(59%)	② 他の人と異なる点がある(46%)
高等学校生徒 いじめた経験あり	①	ふざけているという感覚(84%)	① 自分の意見をはっきり言わない(76%)
	②	相手か嫌い(82%)	② 友達関係をうまく築けない(58%)
高等学校生徒 いじめられた経験あり	①	相手か嫌い(82%)	① 自分の意見をはっきり言わない(72%)
	②	ふざけているという感覚(80%)	② 友達関係をうまく築けない(59%)

設問5 「いじめを見ている子供」は、なぜいじめを見ているのだと思いますか。

	1位	2位	3位
小学校児童	かかわりをもたたくない(77%)	自分かいじめられたくない(70%)	いじめているグループか怖い(64%)
中学校生徒	かかわりをもたたくない(82%)	自分かいじめられたくない(76%)	いじめているグループか怖い(66%)
高等学校生徒	かかわりをもたたくない(85%)	自分かいじめられたくない(82%)	いじめているグループか怖い(76%)
教職員	かかわりをもたたくない(75%)	自分かいじめられたくない(70%)	いじめているグループか怖い(49%)
保護者	かかわりをもたたくない(79%)	自分かいじめられたくない(72%)	いじめているグループか怖い(55%)

9 調査結果の考察

(1) 「いじめ」の背景や原因

(いじめの背景や原因についてどのように考えていますか。)

ア 小学校及び小学部児童、中学校及び中学部生徒、高等学校及び高等部生徒（以下、小学生、中学生、高校生と呼ぶ）、教職員、保護者ともに、「子供同士の人間関係が築かれていない」ことを第1位に挙げている。また、高校生や教職員、保護者が、「望ましい親子関係が築かれていない」を第2位～第3位に挙げている。

イ 高校生を除く、小学生、中学生、教職員、保護者ともに、「ストレスがたまっている」を第2位に挙げており、日常生活におけるストレスのはげ口として、いじめをとらえている。

ウ 中学生や高校生は、「学校のいじめをなくす努力が不足」を選択しており、学校のいじめに対する姿勢に課題があることを指摘している。

以上のことから「子供同士の人間関係」や「望ましい親子関係」及び「ストレス」が「いじめ問題」には大きくかかわっているという意識を子供も大人ももっていることが明らかになった。

(2) 「いじめ」の解消

(いじめの解消についてどのように考えていますか。)

ア 小学生、中学生、高校生は、「子供同士の好ましい人間関係づくり」を第1位に、教職員や保護者は、「生命尊重の態度の育成」を第1位に挙げており、子供と大人の間には立場による意識の差がみられる。

イ 教職員を除く小学生、中学生、高校生、保護者は、「悪いことは悪いと言う態度の育成」を第2位に挙げており、子供自身のいじめに対する毅然とした態度が必要であるとしている。

ウ 中学生や保護者は、「教師のいじめに対する毅然とした指導」を多く選択しており、いじめに対する毅然とした態度は、子供自身だけではなく教師の対応にも求めている。

以上のことから、「いじめ問題」の解決には、「子供同士の人間関係」の改善が必要であると児童・生徒は考えている。また、教職員・保護者が、「生命尊重の態度の育成」を最も多く選択していることや、児童・生徒や保護者が、「悪いことは悪いと言う態度の育成」を多く選択していることから、いじめ解消のためには児童・生徒同士の人間関係に着目した指導や正義感の育成、生命尊重を基盤にした教育の推進とともに、いじめは絶対許さないという毅然とした姿勢が望まれている。

(3) いじめる子供

(いじめる子供は、なぜいじめるのだと思いますか。)

ア 小学生、高校生は、「相手が嫌い」を第1位、中学生は、第2位に挙げている。また、小学生、中学生、高校生ともに「ふざけているという感覚」を第1位～第3位に挙げている。

イ 教職員や保護者は、「毎日の生活に不満」を第1位に挙げ、「友達関係がうまく築けない」を第2位～第3位に挙げている。

ウ 相手が嫌いだから、また、ふざけ感覚でいじめるのではないかと考える子供の意識と、いじめるのは「毎日の生活に不満」や「友達関係がうまく築けないこと」にあるのではないかと考える大人の意識とに相違がみられる。

エ 「いじめたことがある」子供は、「相手が嫌い」「ふざけているという感覚」の選択が多い。

オ 「いじめられたことがある」子供は、「毎日の生活に不満」「ふざけているという感覚」「相手が嫌い」の順に選択しており、「いじめたことがある」子供との意識に相違がある。

以上のことから、いじめる子供の「相手が嫌い」また「ふざけているという感覚のため」といったいじめは、人を深く傷付けるという認識をもたない行為である点や、「一緒にいじめないといじめられる」という子供同士の人間関係を踏まえると、「いじめは人権を侵すものであり、どんな理由があっても許されない。」という姿勢で児童・生徒の指導に当たることが大切である。

(4) いじめられる子供

(いじめられる子供は、なぜいじめられるのだと思いますか。)

ア 小学生、中学生、高校生、教職員、保護者ともに、「自分の意見をはっきり言わない」や「友達関係がうまく築けない」「他の人と異なる点がある」の3項目を、第1位～第3位に挙げており、子供も大人も、自分の意見をはっきり言えず、積極的に友達関係を築くことができない子供がいじめの対象になると考えている。

イ 「いじめたことがある」子供は、「自分の意見をはっきり言わない」「友達関係がうまく築けない」という理由とともに「集団の和を乱す」を多く挙げています。

ウ 「いじめられたことがある」子供は、「自分の意見をはっきり言わない」「友達関係がうまく築けない」という回答が多くなっているが、「集団の和を乱す」の選択は少ない。

以上のことから、「いじめられる子供」の意見をはっきり言えない自分、悪いことを悪いと言い切れない状況をどうにかしなければならぬと悩んでいる姿を読み取ることができる。そのような子供の気持ちを受け止め、親身になって相談に応じるとともに、自他の相違を認め、互いに尊重し合う態度の育成が必要である。

(5) いじめを見ている子供

(いじめを見ている子供は、なぜいじめを見ているのだと思いますか。)

ア 小学生、中学生、高校生、教職員、保護者ともに、「かかわりを持ちたくない」「自分がいじめられたくない」「いじているグループが怖い」の3項目を選択しており、子供も大人も同じようにその理由を考えている。

イ 上記の3項目は、自分がいじめに合うのを避けたいという自己防衛の姿である。

以上のことから、自分のことばかりに目を向けるのではなく、他者にも目を向け、友達との心のつながりを基盤に、その立場や心情を考え、適切な行動がとれる態度の育成が求められる。

また、こうした態度の育成は、児童・生徒だけに求められるのではなく、教職員・保護者自身にも自らの態度を振り返り、児童・生徒の行動を認め励まし、互いに尊重し合い、助け合う社会をつくり上げていこうとする姿勢が求められる。